

「詩篇に生きる」

～主により頼む人生!!～

詩篇 62: 1 ~ 12

あなたは誰に似ていますか？誰に似るかは大切なことです。私たちは良いものは受け継ぎ、今までの染み付いた価値観やふさわしくないものを捨てて、少しずつ正しいベストな道へと変えようとしているのです。

ダビデはひとりであるということにいつも心を向けていきました。日本の教育は集団を重んじて、ひとりであるということの良いしとはしない教育です。共生社会の中で秩序を重んじて、人様に迷惑をかけないよう恥をかかぬようにと、問題に気づいても心の中に沈めておく社会です。しかし、聖書は自分が目にしたその問題とどう向き合うかを伝えていきます。

今日のメッセージは、ダビデの生き方を通して「詩篇に生きる」ということです。ダビデは国家権力全体が彼に向かってくる何十年間にも続く苦難の中で、自分の人生を神様に向けようとした戦いの人生です。ダビデという名前は「神様に愛された人」という意味ですが、ダビデは人の妻を取りその夫を殺し、神がしてはならないということをしてしまいました。しかしそんなダビデですが神に愛されたのです。神様はすべての人を愛しておられますが、ダビデにしたようにその愛に「恵み」を施されます。それは、ダビデのようにどんな状況の中でも「立って神を待ち望む」ということにつきます。

人は人に話すことで結論づけていきますが、そこに解決はありません。ダビデの方法はまず神様に話すのです。そして次に神はどうなのか、次に自分はどうか。私たちがしなければいけないのはこのダビデの方法です。神様の前に降ろしたら、黙って待つのです。この黙るということが contemplation であり、聴こうとする姿なのです。

① 主の前に

ダビデがしていたことは、①神の前に出て行き、②人生の確信を得て、③礼拝者となっていたのです。朝起きて、何かをする前に、まず神様の前に出ることが大切です。何事も神様の前に行き、祈ってから始めましょう。

② 人生の確信を

そして確信を得てください。あなたがしようとしていることを主に委ねる行為です。「私のたましいは黙って、ただ（アク）神を待ち望む。」（詩篇 62: 1）とあります。アクとはヘブル語で「まことに、ただ、確信」という意味があります。ダビデは何度もここでこのアクという言葉を使い、自分に言い聞かせている（確信させている）のです。『あなたがたが、これらのわたしの兄弟たちは、しかも最も小さい者たちのひとりにしたのは、わたしにしたのです。』（マタイ 25: 40）あなたは何かをする時、この御言葉のように神様にしていると確信して行っていますか？ダビデは失敗も沢山しましたが、神様の前に確信して行っていたからこそ、後の世代も祝福され「あなたの父ダビデに免じて」と言われたのです。私たちが時かない種を刈り取っています。そして、今種を蒔いているということを確認してく

ださい。あなたが種を蒔くと、実を結びその実が残る人がそれを刈り取るようになるのです。だからこそ神様の前に出て、「私は負けない。神様によって守られるんだ」と確信することが必要なのです。

③ 礼拝者に【感謝の賛美】

この詩篇では「私の救いは神から来る。」という確信と現実の間の 2 つが書かれています。ダビデは自分の部下だった兵士たちも息子に従い、王国が分断していくような状況の中、それでも神様に訴え祈りました。望み（信じる、信頼する心）とは「綱」という意味です。もし車が動かなくなったら、綱はひっぱってくれる車に結ばれているからこそ意味があるのです。神様に繋がろうとする行為は希望を持つということです。決して大丈夫ではない状況の中で、それでも神様の前に出て、自分の心を神様に向け自分の心の向きを変えようとする行為、それは礼拝です。礼拝はあなたが幸せになる最大の秘訣なのです。

日銀の速水総裁は戦前家族が救われ、戦後彼も神様に会いとても熱心なクリスチャンでした。彼はどんな状況の中でも、生涯一度も礼拝を欠かしたことはありません。そしていつも神様の前に祈っていました。

- ・主、我とともにいませり
- ・主、我を愛す
- ・主、我を知りたもう

速水総裁はこの 3 つを確認して、神の前に何も隠さず徹して行っていました。だからこそあれだけの仕事をいつも行えていたのです。

まとめ

ダビデは自分の生きる道がどうあるべきかに向いていました。問題が起きた時、人に頼りたくなりますが、人に頼らないと決断するのです。ダビデは「神は、一度告げられた。二度、私はそれを聞いた。」（詩篇 62: 11）と言っています。これはダビデがもう一度自分に言い聞かせているということです。確信とは二度三度と自分に聞かすことなのです。私たちは象使いであって象ではありません。だからこそ自分に命令するのです。人はたましいの管理者です。ダビデは自分のたましいをコントロールする為に詩篇を作り賛美したのです。そのようにあなたにとって大切な礼拝を神様に捧げることが大切なのです。

礼拝できないように私たちを神様から離すものは「怒り」です。聖書では怒ったままでいてはいけなくと伝えていきます。だからこそ怒りを捨て、主に信頼し、神様が成し遂げてくれると確信を持つことが大切です。そして神様の前に静まって耐え忍んで待つのです。これが私たちが地を受け継ぐプロセスなのです。

ダビデは置かれた場所で神様に忠実に生きようしました。神様はそれぞれに必要な助けを与え、相手も自分もその周りも整えてくれます。神様が今あなたにせよと言われてることをすることが、あなたの願いに近づく一番の道です。だからこそいつも神様の前に出て行き、自分に言い聞かせ確信していきましょう。

（要約者：西寄 芳栄）

（10月8日）